新潟地域の独特遺産である定期市(六斎市)の活用を通した地域振興メニューの提案

八千代エンジニヤリング　　正会員　○吉田　秀樹

１．はじめに

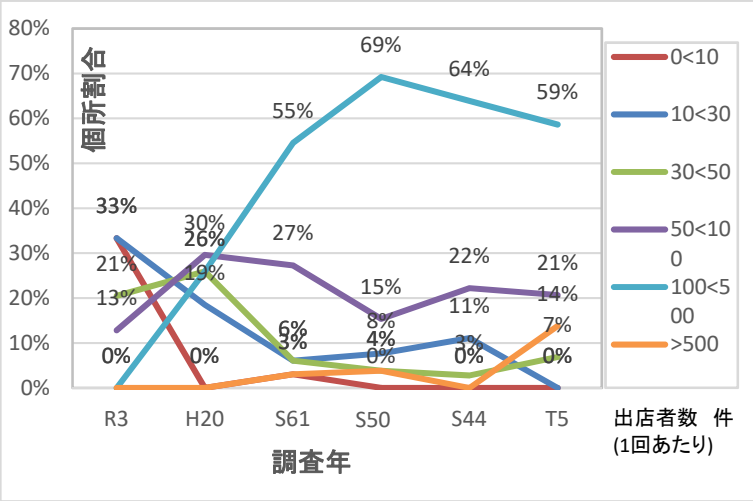
新潟県の信濃川・阿賀野川流域・日本海沿岸等に定期市（六斎市[注]等:中世がその成立の起源といわれる。以下「六斎市」とする）が多数存在する。特に水運・海運の港のあった在郷町や湊町に多数存在する。六斎市は近代まで全国に存在したが、現存するのは新潟県・秋田県・愛知県等一部地域だけである。多数存在するのは新潟県のみであり、一部調査はなされているが [1)2)]、近年六斎市に関する全体的調査は実施されていない。出店者も高齢化し、大型商業施設の進出等のため、現在のうちに記録に残すことが急務である。

このため、本研究では、令和 3 年度より全国の六斎市集中地域の調査を行うとともに、新潟の独特遺産である六斎市について、県内の現状等の悉皆調査を実施、地域振興実証実験（六斎市ツアー）を実施し、六斎市を通した地域振興メニューを検討した。

注）六斎市とは月に 6 回に市が立つ定期市。例えば 2,7,12,17,22,27 のように、2 と 7 の付く日に行われる。

２．新潟地域における六斎市現状調査 [3)4)5)]

新潟地域の六斎市の現状について令和 3 年度自治体等を通じ悉皆調査し分析した。新潟では市数自体変化はないものの出店者数の減少が著しいことがわかった。（図−1）



図−1　出店者数域別六斎市箇所数の割合の推移

３．全国の六斎市の現状と比較 [4)6)7)8)]

令和 3 年度から 3 年間新潟以外の六斎市が残っている地域（秋田北部、秋田南部、三河、三重）について現地調査した。その結果新潟は他地域に比較し市数は特別多く、出店者数は減少しているものの他地域ほどではない一方、観光への利用・PR や振興への取り組み、会場の公共整備は他地域よりやや劣ることがわかった。新潟の六斎市は地元住民のための市であることがわかる。（表−1）

表−1　全国定期市比較表

地域	HPでのアクセス度	歴史	地域の定期市数	出店者数	観光への利用	振興への取り組み	会場の公共整備
新潟	○可能	近世	○ほぼ横ばい　５０	△減少	×	△官民	△駐車場等
秋田県北部	○可能	近世	×減少　１６	×さらに減少	○	○官民	○建屋・駐車場等
秋田県南部	○可能	近世	×減少　４	×さらに減少	○	○官民	○建屋・駐車場等
三河	○可能	近世	?減少　２６？	×さらに減少	×	?	△道路
三重	○可能	近代	×減少　１０	×さらに減少	△	△官民	○建屋・駐車場等

４．地域振興実証実験（六斎市ツアー）

以下の 4 項目を確認するため六斎市とまちあるきをセットにした六斎市ツアーを実施した。

①六斎市・水運と関係した町の発展の歴史に関して新潟市民に認識されているかの確認。②六斎市ツアーが魅力的か否かの確認。③水運との関係も考慮した町歩きとセットにした六斎市ツアーが可能かの確認。④六斎市ツアーが地域振興のメニューとなるか否かの確認。

令和 3 年度は小須戸(新潟市民対象)、亀田(新潟市民対象)[4)]、令和 4 年度新津(新潟市民対象)、葛塚(関東地域対象)[6)]、令和 5 年度は松浜(新潟市民対象)[8)]（写真−1）の六斎市を対象に六斎市ツアーを実施した。20 人程度募

キーワード　六斎市，定期市，みなとまち，地域振興，観光，水運
連絡先　〒111-8648　東京都台東区浅草橋 5-20-8 CS タワー
八千代エンジニヤリング　TEL080-9896-8943

集し、参加者には確認項目①～④にかかるアンケートを実施した。

令和 3 年度は無料ツアーとしたがアンケート結果、「有料でよいから昼食希望」の声が多かったことから、令和 4 年度からは有料昼食付きとした。また、令和 5 年度は街歩きに坂道歩きを付け加えた。

アンケート結果として、①六斎市ツアー魅力的であり地域振興に役立つ、②街歩きや坂道歩きとセットがよい、③六斎市は新潟市民にはそれなりに知られているが、新潟の独特性は知られていない、④関東住民は新潟の六斎市を全く知らない、⑤関東住民にとって観光目的でない六斎市はあまり魅力的でない(宅急便の準備、お土産的な出品の不足等)、ことが明らかとなった。

写真-1　六斎市ツアーの様子

５．地域振興メニューの提案

六斎市ツアーおよびアンケート結果をもとに地域振興メニューを検討し提案した。[6](図-2) 特に六斎市の性格付けが重要である。新潟の六斎市は新潟県民、市民向けの性格が強いことから、その六斎市の性格に応じた地域振興メニューが望まれる。

新潟県民・市民向けに六斎市およびその新潟独特遺産の認知度を上げるため、地域振興メニューの一つである六斎市パンフレット(新潟県版・新潟市版)を作成し、関係市役所、図書館、観光案内所等に配布した。[8](図-3)

六斎市の性格付け

居住地域	①市開催地住民	②県民対象	③県外住民対象
年齢層	①高齢者	②若者	③全て
目的	①日常買い物	②観光	③両方

地域振興メニュー

○六斎市の民族的・文化的・歴史的状況の認識
(新潟県民・市民)
・教育における総合学習
・生涯学習における講座の充実
・六斎市ツアーの実施
○六斎市の PR
(新潟県民・市民)(全国)
・新聞・テレビ等による PR
・パンフレットの作成・改良
・六斎市ツアーの実施
○六斎市の充実
・出店者緩和と募集
・商品の充実
・開催用地の確保と基盤整備

図-2　地域振興メニューの提案

６．まとめ

六斎市は新潟では至極当然のように行われているが、その新潟の独特性について知らない市民が非常に多い。3 年間かけて六斎市の全国・新潟調査と六斎市ツアーを実施した。特に令和 4 年度は関東住民向け六斎市ツアーを実施した。その結果 15 年前より全国的に定期市が衰退していることがはっきりした。産直などとの競合、役割分担ができていないこと、公共の取組みの不足、地域振興への認識、定期市の性格付け等課題が明らかとなった。一方で新潟の六斎市の市数は横ばい、アンケート結果からもまだ活性化の可能性があり、地域振興に役立つものと思われる。本調査を実施した NPO 法人新潟みなとクラブの一員として六斎市の活性化に向けて取り組みたい。

なお、この調査は(一社)北陸地域づくり協会の「北陸地域の活性化」に関する研究助成を受けています。

図-3　六斎市パンフ(マップ・新潟市版)

参考文献 1)水路水位差解決手段としての閘門等に関する資料収集整理,港湾空港建設技術サービスセンター,2010.
2)吉田秀樹: 地域振興の手段としての定期市（六斎市）と内陸水運との関係について,第 67 回年次学術講演会,2012
3)新潟みなとクラブ：六斎市調査(新潟)調査票による現況調査報告書,2022
4)新潟みなとクラブ: 新潟の独特遺産である六斎市を通した地域振興メニューの開発,2022
5)吉田秀樹: 新潟地域の独特遺産である定期市(六斎市)の現状調査と将来に関する一考察,第 77 回年次学術講演会,2022
6)新潟みなとクラブ: 新潟の独特遺産である六斎市を通した地域振興メニューの開発(II),2022
7)吉田秀樹: 新潟の独特遺産である六斎市を通した地域振興メニュー開発,日本沿岸域学会,令和 5 年度研究討論会,2023
8)新潟みなとクラブ: 新潟の独特遺産である六斎市を通した地域振興メニューの開発(III),2024